

・ 滞在研究機関名、滞在先研究室名、ホスト氏名

Bonn 大学、Life & Medical Science Institute (LIMES)

Thiele 研究室

Christoph Thiele 教授

・ 交流・研究概要

今回、交換留学プログラムとして2014年8月18日～30日までボン大学のLife & Medical Science Institute (LIMES) に行き、研究活動を行いました。私は Christoph Thiele 教授の研究室に派遣を希望し、そこで Ph.D の Anne Gaebler さんの指導のもと、実験に取り組みました。2週間という短い期間でしたが、細胞培養、薄層クロマトグラフィー、クリック反応、蛍光顕微鏡を使ったイメージング、画像分析など普段研究室ではできないような実験を経験することができました。また、最終日には派遣学生による発表があり、日本での研究及びドイツでの研究を10分間にまとめプレゼンを行い、他の研究生の発表や質疑応答では非常に刺激を受けました。ドイツの方々には非常に優しくして頂き、派遣先研究室と一緒に昼食をとるときは、ドイツ人同士で話すときも英語で話して頂き、私が理解できないときは言い直してくれたり、心遣いがとてもありがたかったです。それと同時にせっかく英語で話して頂いているのに聞き取れず話に入れないときもあり、より英語の勉強に力を入れなくてはならないと改めて感じました。

今回、このプログラムに参加したことで、海外により長期間留学したいという思いが強くなりました。私の研究室では朝から夜遅くまで実験をし、土日学校に来ている人が少なくありません。しかし、ドイツの方々には実験が終わればすぐに帰り、夕方頃から始められる実験でも次の日に回したりと、びっくりするような生活を送っていました。しかし、短い時間で効率的に仕事をし、成果を出すスタイルはぜひ吸収したいものであり、海外での研究の楽しさを実感することができました。また、以前から留学については少し考えていたものの、決断する材料もなく、このまま博士過程も同じ研究室で過ごすのかなと考えていましたが、今回新しい人に出会い、違う価値観に触れることで改めて留学したいという思いを強く持つことができました。

Thiele 研究室ではアルキンタグをつけた脂質のイメージングを主に行っています。私の研究テーマであるラマン顕微分光法でもアルキンに特異的なピークを元にイメージングを行うことができます。そのため、違うアプローチでアルキン脂質をイメージングするという方向で共同研究等に結びついたらいいという思いで派遣先研究室を決めました。また、Thiele 研究室は有機合成も行う研究室でありながら、私の専門は生物であったため、合成ではなく生体系を用いたイメージングを学びたいと申請書に書いて提出したところ、Thiele 教授が快く受け入れて下さり、さらには日本に測定サンプルを持ってきて下さりました。今後実験を進め、共同研究としてぜひ形にしたいと思います。

・ 滞在先の写真、相手の写真など

Thiele 研究室のメンバーと昼食



スーパーバイザーである Anne さんと



・ 交流総括

今回のプログラムは参加して本当によかったと思っています。海外の研究室で研究することはなかなかできる体験ではなく、新しい価値観を取り入れられたように感じました。また、海外留学への気持ちもより一層強くなり、将来的には海外で研究活動を行える機会があれば積極的に外に出て行きたいと思いました。

・ プログラム日程

8月16日：日本出発

8月17日：ドイツ到着

8月18～22日、25～29日：ラボワーク（Anneさんの指導のもと、アルキン脂質のイメージング、代謝解析を行う。シンポジウムのスライド作成など。）

8月30日：シンポジウム

8月31日：ドイツ出国

9月1日：日本到着